

# 恒久平和を願う

## 戦争・被爆体験を後世に

終戦から今年で68年。戦争・被爆体験者のほとんどが70歳を超え、その実相を知る人が急激に減っています。壮絶な体験を後世に伝え続けていくために、今できることは何か、山内地区の取り組みから考えてみます。

### 今も起こり続ける紛争 増大し続ける核の恐怖

唯一の被爆国の日本に住む私たちは、戦後「反核平和」「戦争反対」と叫び続けてきました。

しかし、世界中では今もなお多くの紛争が起き、多くの人が血を流し、何の罪のない子どもまでもが多くの犠牲になっていきます。世界には核弾頭が

1万7千発以上あると言われ、核開発を進める国は後を絶ちません。

それは遠い国での話ではなく、いつ私たちに降りかかってくるか分からないのです。それが現実起こったらどうなるか。今の生活など一瞬で吹き飛んでしまうことでしょう。そのことを私たちはしっかりと受け止めておく必要があります。

### 地域で育む命の尊さ・思いやる心

広島への原爆投下直後、山内地区にも多くの被爆者が輸送されてきました。用意された臨時病棟には274人の被爆者が収容され、88人が亡くなっています。その犠牲者を悼み、平和を祈念する「山内原爆犠牲者慰霊式典」を毎年8月6日に行っています。

この式典には、遺族や地域住民をはじめ、山内小学校の児童も参列。地域が一体となって被爆の実相の継承に取り組んでいます。

山内小学校では児童会が中心となり、慰霊式典に向けた校内活動を行っています。全校児童が協力して千羽鶴を作成。児童は折り紙一枚一枚に、平和への願いを込めたメッセージを書き込

み、一つ一つ丁寧に折っていました。また、被爆体験記「葛城」(山内地区原爆被害者の会発行)を使った学習なども行っています。

「過去何があつたかを知ることよりも大事。その上で平和を築くためには、まずは自分たちの家族や友だちを大事にすること。命の尊さを感じてくれれば」と山下博教諭。兼丸裕子校長は「山内地域は住民の方が日ごろからさまざまな形で学校にかかわってくださっている。慰霊祭を含め地域活動も活発なので、日々のかかわりを通して、子どもたちも人を思いやる心が自然と身についている」と話しています。

「戦争のない平和な世の中になってほしい」と願う子どもたちの心は、こうした環境によって育まれています。



毎年8月6日に行われる山内原爆犠牲者慰霊式典



千羽鶴を折る山内小の6年生

平成25年度

### 庄原市戦没者追悼式 ならびに平和祈念式典

本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式ならびに平和祈念式典を次のとおり開催します。

多くの皆さんの参加をお願いします。

●とき 8月21日(水)10時～

●ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、インターネットでの中継も行いますので、各学校、自治振興センターなどでもご覧になれます。

※各支所からの送迎バスをご用意しています。利用を希望する場合は、8月15日(木)までに各支所に申し込んでください。(定員に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。)

問い合わせ 社会福祉課障害者福祉係  
☎0824 - 73 - 1210  
または各支所市民生活室